

成熟社会をつくる政策社会学



2009 年度上村ゼミ論文集

名古屋大学文学部社会学研究室

はしがき

私が尊敬する御先祖様の一人に、上田章（1833～1881）という人がいる。母方の祖父の祖父にあたる。歴史の表舞台に登場した人ではないが、大河ドラマの狂言回し役として出てきてもよさそうな人物である。江戸赤坂に米屋の息子として生まれ、漢学を学び、29歳で紀州藩江戸屋敷の藩校の校長先生に抜擢された。墓誌にはこう記されている。

「文久辛酉二年、先生年二十九、擢んでられて明教館寮長となる。人となり敦厚にして気節あり。人と接するに備わらんことを求めず、好んで後進を奨励す。その諸生を訓督するや、章句末節をもって責めず、専ら元気を振起し、国脉を維持することをもって務めとなす。ここにおいて青年有為の材、続々乎として輩出す。」

この数行を読むだけで、私は自分が名古屋大学でやっている教育について反省させられる。「備わらんことを求めず」というのは書経の言葉で、学生の出来不出来を問わないという意味である。「章句末節をもって責めず」とは、テキストを間違いなく読めたかといった些事にこだわらないということである。そんなことより、学生の志を励まし、国の将来を担う人物に育てるほうが大事である。そう言われてわが身を振り返ると、今年も学生の不出来を嘆き、英文講読の章句末節で受講生をいじめたことが悔やまれるのである。

有為の青年が輩出したというのは誇張ではない。明教館の卒業生は個性派ぞろいである。そのなかには、岡本柳之助（1852～1912。陸軍少佐として西南戦争に従軍。竹橋事件の黒幕と目され官位を剥奪された後、朝鮮に渡り明成皇后暗殺を首謀）、岡崎邦輔（1853～1936。策士として知られた政友会の領袖。衆議院議員当選10回）、小泉信吉（1853～1894。大蔵省主税官を経て慶応義塾長。福沢諭吉の高弟）、中井芳楠（1853～1903。横浜正金銀行初代ロンドン支店長。日清戦争の賠償金送金や戦後の公債募集に手腕を発揮）がいた。彼らは同級生であり、10歳前後で明教館に学んだと思われる。ちなみに、岡本柳之助は今日の基準からすれば褒めにくい人物であり、ソウルの景福宮にある明成皇后殉難の壁画の前に立つと日本人として恥ずかしい気持ちになるが、他の同級生と同様、彼も時代を駆け抜けた一つの個性には違いない。明治革命を隣国に輸出しようとしたテロリスト、というのが私の岡本評である。

上田章が明教館の寮長になった文久2年は1862年、つまり明治維新の5年前である。江戸時代後半に3000万人で一定していた日本の人口はこの年あたりから増加を開始し、その後150年かけて1億2000万人になった。厚生労働省の推計によれば、その人口はこれから150年かけて3000万人に戻るらしい。人口が減ることは社会の衰退と同義ではない。それは美しい成熟の過程でもありうる。この論文集の寄稿者のなかから、今後150年の社会の成熟を担う個性が輩出してくれることを願っている。

2010年4月29日

上村 泰裕

目次

【学年末論文】

「ニート」はひきこもりにどんな影響を与えたか	(近藤文香)	1
騾と虐待の境界線	(石田大祐)	11
母子家庭支援政策の現状と限界	(尾崎史織)	27
なぜ男性の育児参加を奨励すべきなのか	(辻俊宏)	38
農政の展開と集落型農業生産法人	(井戸寛之)	46
学費に関する学生の運動	(梅原愛美)	55
騒音問題における解決のかたち	(杉本健治)	67
日本企業駐在員による中国駐在経験の活用	(和田静香)	77

【卒業論文】

婚活時代の公的結婚支援事業	(竹中理恵)	89
在住外国人の日本語学習と定住志向	(今井優作)	149

【修士論文】

高齢者の社会参加とネットワーク	(美濃羽亜希子)	207
-----------------	----------	-----

成熟社会をつくる政策社会学
2009年度上村ゼミ論文集

2010年5月14日 印刷・発行
名古屋大学文学部社会学研究室
464-8601 名古屋市千種区不老町780
e-mail kamimura@lit.nagoya-u.ac.jp